建設作業をDX化

橋本組（焼津）、都内企業と協定

VRで機械遠隔操縦

総合建設業の橋本組（焼津市）はこのほど、建設業向けデジタルソリューション開発の「EARTHBRAIN」（アースブレイン、東京都）と建設現場業務のDX（デジタルトランスフォーメーション）化推進のための協定を結んだ。アース社の最先端の情報通信技術（ICT）を導入し、人手不足といった業界の課題解決を図る。

アース社が開発する、仮想現実（VR）で自動運転の建設機械を操縦し、遠隔地にいながら作業を進めることができるシステムを橋本組の建設現場で導入する計画。橋本組は近く社員向けの研修を行う。

アース社はコマツ、NTTドコモなどが共同出資し設立。建設業向けのデジタル化を進めるソフトを開発、提供している。

橋本組は数年前から現場作業の一部にICTを導入し、ドローンで撮影した地形データを建設機械に連動させて、掘削量の最適化を図ったり、掘削した土を運ぶダンプカーの最短ルートを導き出したりするなどしている。

橋本真典社長は「最先端の技術に触れることでDX化を進めたい。建設業界の課題である人手不足の解消も図っていきたい」と語る。（焼津支局・福田雄一）

バイオマス活用へ補助

県森林白書案 CO_2排出削減向け

県は本年度、林業者が木材を切り出した際に残る端材などを木質バイオマス原料として活用を促す。補助制度を立ち上げ、地域資源の有効活用や燃料としての供給拡大、二酸化炭素（CO_2）排出量削減につなげる。

本年度の県森林共生白書案に盛り込んだ。森林組合や林業会社に、丸太生産時に生じる木の枝や根株といった部材を木質チップに加工するよう後押しする。木質チップ加工に必要な設備の導入・レンタル費用などを補助し、効率的な輸送体制構築につなげる。補助率は2分の1以内で上限は200万円。

木質バイオマスは近年、化石燃料の代替エネルギーとして需要が高まっている。本年度から4カ年の「県森林共生基本計画」では、木質バイオマスのチップ用材生産量を2020年度実績の5万7千立方㍍から、25年までに10万立方㍍に引き上げる目標を掲げる。

県森林共生白書は林業関係者や大学教授でつくる県森林審議会の意見を踏まえて内容をまとめ、7月中に公表する。（経済部・平野慧）

販路開拓へ技術PR

都内 航空宇宙展に県内13社

国内外約1210社が集う日本最大級の産業展示会「日本ものづくりワールド」が22日、東京・有明の東京ビッグサイトで開幕した。「航空・宇宙機器開発展」の本県ブースには、県内13社が出展。コロナ禍からのV字回復に期待が掛かる成長分野への新規参入や販路開拓に向け、技術をアピールしている。24日まで。

県の新成長産業戦略的育成事業の委託を受けた浜松商工会議所がブースを設け、参加を呼び掛けた。エステック（清水町）は、緻密な技術を要する複雑な形状のジェットエンジン部品を紹介。テクニカルサポート（浜松市北区）はドローンなどで使用するモーター性能の評価試験装置を売り込んだ。県内14社でつくる共同受注体「静岡航空宇宙産業プロジェクトSOLAE」も共同出展した。

航空業界は新型コロナの影響で低迷した。しかし、浜松商工会議所によると、数年後にコロナ前の需要を上回る試算もあるといい、SOLAEの理事長を務めるテクノ・モーターエンジニアリング（磐田市）の臼井秀和社長は「各社の高い技術を伝え、仕事につなげたい」と話した。

県内企業が技術をアピールしている展示会＝22日午後、東京・有明の東京ビッグサイト

合併・買収通じ地域貢献

名南M&A 静岡オフィス 移転記念しイベント

企業の合併・買収（M&A）仲介を手掛ける名南M&A（名古屋市）は23日、静岡オフィス移転の記念イベントを静岡市葵区で開いた。同社の篠田康人社長と日本創生投資の三戸政和CEOが地方のM&Aの未来をテーマに対談した。

篠田社長は「政府はM&Aを中小企業施策の1丁目1番地と位置付け、推進に向けた後押しを拡大させている。地域発展のため、当社もM&Aを通じて中小企業を支援したい」とあいさつした。

対談で三戸氏は、首都圏を中心に個人が企業を買収するケースも起きていると紹介。「地方も今後、M&Aは確実に広がるだろう。企業の合併や買収から起業するより理的な経営手法」

静岡オフィスは、の増加に伴い、の葵タワー1階のオフィスから同へ移転。応接スを完備し、従業駐している。

記念イベントで対談する名南M&Aの篠田康人社長（右）と日本創生投資の三戸政和CEO＝22日午後、静岡市葵区

清水港5月輸出減 3カ月ぶり

名古屋税関清水税関支署がこのほど発表した5月の清水港貿易概況（速報）によると、輸出は前年同月比4・0%減の1592億円と3カ月ぶりに減少した。輸入は33・4%増の1199億円で16カ月連続で伸び、差引額は392億円の輸出超過だった。

輸出は原動機（9・4%増）などが増加した一方、無機化合物（69・3%減）や重電機器（37・1%減）、非鉄金属（40・4%減）などが減少した。輸入は金属鉱・くず（30倍）、液化天然ガス（2・1倍）、パルプ（69・7%増）などが特に伸長した。

御前崎港は輸出が29・5%減の224億円と9カ月連続の減少。輸入は18億円と2カ月ぶりの増加となった。輸出は自動車や自動車の部分品の減少した。

田子の浦港は輸出6%減の9億円、輸入1%減の19億円。静岡空港は輸出がなかった。

ポストコロナで持続的成長力を

ヤマハ株主総会

ヤマハは22日、定時株主総会を浜松市中区の本社で開いた。中田卓也社長は5月に発表した中期経営計画（2023年3月期～25年3月期）について「ポストコロナで大きく様相が変化した新たな社会で、持続的な成長力を高めるし、企業価値の向すす姿勢を強調した。

同計画では事業境・社会、人材の針を設定し、顧客がりの強化や気対応を重視する込んだ。22年3算は3年ぶりの増なった。さらに、南アジア市場での

新理事など選任

県商議所連総会

県商工会議所連合会は22日、通常総会を静岡市駿河区で開いた。任期満了に伴う改選で、新理事に鈴木裕司磐田商議所会頭、小原照光焼津商議所会頭、河原崎信幸富士宮商議所会頭の3氏を選任した。

新監事には山田寿久藤枝商議所会頭、田中豊下田商議所会頭の2氏が就いた。

酒井公夫会長はあいさつで、緊張が高まる世界情勢や円安に触れ、が厳しくなる中、産や休廃業によへの深刻な影響る。円滑な事業た支援体制の整に進めていくと強調した。

（一社）静岡県商工会議所連合会 第83回通常総会

新理事などを選任した会議所連合会の総＝22日午後、静

預金残高1兆円に

三島信金

三島信用金庫は21日、預金残高が1兆円を超えたと発表した。県内の信金では4番目。1911年の設立から111年での大台突破になった。

年金受給者を中心に個人預金を増やすとともに、指定金融機関として市町の指定金受託を大きく増やした。2021年度に新たに6市町の指定機関となり、7月からさらに2市町が加わるという。

経済しずおか

茶況

本山筋 早い片付き

静岡茶市場 県産二茶

22日

静岡茶市場の県産二茶の上場量は、前日の降雨の影響で約2万2600㌔にとどまった。終盤の本山筋の片付きは早かった。

本山筋は薫科や美和、麻機などが持ち込まれ、900円周辺から600円台で商談成立した。ある生産者は「下げ幅は小幅のままで終わりそう。最終盤で底値が見えてきた」と話す。

500円台の品の引き合いは堅調に推移している。JA関係者は「数量が伸びない中、想定よりもドリンク関連以外の相場がしっかりしている」と話す。

◇静岡茶市場二番荒茶相場

▽成立 二、九七七㌔（県内 三、八五㌔、県外 二、八二三㌔）

藤枝 降雨の影響でJA茶業部藤枝工場への持ち込み量は少なかった。中心は600円台。

島田、金谷、川根 降雨の影響で出荷は少量だった。JA大井川川根工場は12口3261㌔が上場し、600円台後半が中心価格とみられる。

榛原、相良